

定期報告(ウルグアイ内政・外交:2015年12月)

【内政】

1 包括的弱者ケア制度

3日付で大統領府は、包括的弱者ケア制度創設法(法律第19.353号)の公布についてプレスリリースを発出した。包括的弱者ケア制度(SNIC)の創設はFAの選挙公約の一つであり、バスケス政権発足直後に行政府から議会に法案提出、11月19日に成立した。SNIC創設法により推進される政府の弱者ケア政策は、0~12歳の子供、障害者、65歳以上の高齢者及びケア活動に従事している者を対象に、他者の介助なしに日常生活を送ることが困難な弱者の保護、介護、看護をより拡大し充実させることを目的としたもの。同法の施行細則は今後制定される見込み。

2 五カ年予算の成立

16日、下院臨時国会にて政府の五カ年予算計画法案の審議、採決が行われ、賛成多数により可決成立、19日、法律第19.355号として公布された。バスケス政権の会計年度は2016年1月1日から2020年12月31日まで。

3 燃料アルコールセメント公社(ANCAP)の経営問題

- (1)大統領府によれば、15日、バスケス大統領は、同日開催の上院 ANCAP 経営・財務調査委員会への出席を控えたセンディック副大統領と電話で会談した。同委員会は7月末に野党国民党の動議を受け、上院議長を兼任する同副大統領を含む与野党の賛成を得て設置されたもので、2000年3月1日から2015年3月15日までの期間におけるANCAPの経営・財務を調査している。電話会談で同大統領は同副大統領に対し、平静を保ち情報を開示するよう助言した。
- (2)同委員会でセンディック副大統領は、ANCAPがベネズエラ石油公社(PDVSA)に対して負っている石油購入に係る債務帳消し交渉過程におけるイタリアの投資会社 Exor 社の役割について、2012年3月20日にアウラール PDVSA 財務担当理事名で送信された電子メールを開示しつつ、Exor社を仲介役に指定し、後に除外したのはPDVSA側であったが、Exor社はPDVSAとANCAPの両方に対し、交渉から除外されたことに対する異議申し立てを行ったと述べた(1月29日付報道によれば、ANCAP経営委員会はExor社に対し仲介手数料310万米ドルの支払いを決定)。
- (3)22日、アストリ経済財務相及びコッセ工業エネルギー鉱業相が共同で記者会見し、ANCAPの経営・財務状況改善のため、経済財務省、工業エネルギー鉱業省及び大統領府予算企画庁(OPP)で構成される省庁間作業グループの設置、経済財務省の出資による同社債務(現在のレートに換算して5億8,000万米ドル)の帳消し及び同社の株式会社化を決定したと発表した。アストリ経済財務相は、目下、同社の債務支払い期限の延期の可能性を模索しており、またラテンアメリカ開発銀行(CAF)から2億5,000万米ドルの信用貸しを受ける予定であると述べた。

4 飲酒運転規制

28日、改正飲酒運転規制法(法律第19.360号)が公布された。同法は、自動車運転

時における運転手の血中アルコール濃度を0.3グラム以下と定めた2007年の法律を改正したもの。今次改正により、全ての車種、カテゴリにおいて、運転手は、血中アルコール濃度が0.0グラムを超えた状態で運転することが禁止された。

【外交】

1 対日関係

1～4日、コッセ工業エネルギー鉱業相が国連工業開発機関(UNIDO)東京事務所の招聘により訪日し、国際ロボット展(iREX 2015)及び古川一夫新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)理事長との会談、日刊工業新聞及び日経新聞とのインタビュー等を行った。

2 二国間関係

(1) バスケス大統領のチリ訪問

4日、バスケス大統領がチリを訪問し、バチエレ大統領と会談した。会談ではバスケス大統領からバチエレ大統領に対し、国連安保理非常任理事国を務めたチリの経験を共有するよう要請された。今次会談で、第三国における両国間の技術協力に関する了解覚書が署名された。またバスケス大統領は、バチエレ大統領を交え、チリを訪問中のマクリ次期アルゼンチン大統領と三者会談を行った。

(2) ウルグアイ・ブラジル共通自動車政策協定の更新

9日、ニン・ノボア外相及びコッセ工業エネルギー鉱業相がブラジルを訪問し、ピエイラ伯外相及びモンテロ伯商工開発相との間で新たな二国間自動車政策協定に署名した。今次署名により同協定の有効期限が延長され、2015年12月末から、メルコスール共通自動車政策協定が制定されるまで有効と定められた。大統領府によれば、今次の同協定更新により、ウルグアイがブラジルへ輸出できる自動車及び自動車部品の限度総額は6億5,000万ドル、域内原産地比率は40%以上と定められた。

(3) バスケス大統領のアルゼンチン大統領就任式出席

10日、バスケス大統領がマクリ・アルゼンチン大統領の就任式に出席した。バスケス大統領は記者に対し、「ウルグアイ人とアルゼンチン人がそうであるように、ウルグアイ政府はアルゼンチン新政権と良好な関係を築きたい。共に前進するための相互理解、対話及び協働が可能となることを望む。」と述べた。また同行したニン・ノボア外相は「アルゼンチンはこれまでメルコスール・EU自由貿易協定交渉を躊躇ってきたが、政権交替により全てが良い方向へ向くと希望を抱いている。」と述べた。

3 メルコスール

(1) バスケス大統領の第49回メルコスール首脳会合出席

21日、バスケス大統領がパラグアイにて開催された第49回メルコスール首脳会合に出席した。今次首脳会合において輪番議長国が交替、ウルグアイが2016年上半期の議長国に就任した。演説でバスケス大統領は、パラグアイの議長国任期中、EUとの貿易協定交渉を進展させるべく財とサービスのリクエストが作成されたことを評価しつつ、ウルグアイの議長国任期中、EUとの自由貿易協定交渉を合意させ、他の経済貿易圏との関係強化に向けて尽力すると宣言した。その他、社会、教育、労働面での人々の生活向上が統合を進める上で重要であ

ること等を述べた。またバスケス大統領はマクリ新アルゼンチン大統領への歓迎の意及び、内政上困難な状況にあるルセーフ・ブラジル大統領に対する支持を表明した。

(2) その他

24日、メルコスール・エジプト自由貿易協定(2010年8月署名)が議会で承認された。

【社会】

1 治安

(1) シリア人のウルグアイへの不法入国の可能性

犯罪組織の幫助によりアルゼンチンへ密入国したシリア人が、偽造旅券を使用してウルグアイに不法入国した可能性がある。アルゼンチン警察はウルグアイに対し、ブエノスアイレスからウルグアイのコロニア・デル・サクラメントへ渡ったシリア人のうち、数名が不法入国であった可能性があると警告している。本件に関連してアルゼンチン当局は、シリア人の密入国幫助の疑いでイブラヒム・デヒオグル容疑者(トルコ人)の逮捕を命じた。同人は犯罪組織の重要人物と目されている。

(2) セロ地区における治安部隊と不良集団との衝突騒動

16日午後6時ごろ、150人の治安部隊が国道1号線近くのセロ地区のスラム街で騒動の鎮圧に当たり、スラム街の不良集団「タクティカ」と衝突した。同地区から、交通量の多い時間帯の国道1号線方向へ銃の発砲があった。また、不良集団が投石と逃走を繰り返す挑発行為をした。第4署の警察緊急対応チーム(URPM)の警察官2名がスラム街からの投石で頭部を負傷し病院へ運ばれた。

2 その他

14日に公表された国連開発計画(UNDP)『人間開発報告書2015』によれば、ウルグアイにおける人間開発指数は0.793で、「非常に高い」「高い」「中程度」「低い」の四分位中「高い」の水準に位置し、調査対象の188カ国中52位、ラテンアメリカ・カリブ33カ国ではアルゼンチン、チリに次いで3位となった。同日記者会見したアリスメンディ社会開発相は、創設が決定した包括的弱者ケア制度に触れつつ、今後も指数の向上に務め、不平等を更に削減していくことがバスケス政権の挑戦であると述べた。またムロ社会保障相は、『人間開発報告書2015』が労働問題を主題としたことを評価しつつ、バスケス政権による新たな労働の文化(Cultura del Trabajo)創出へ向けた取組を強調した。

(了)